＜訂正版＞

共通彫塑研究室（彫刻・立体造形）

研究室沿革

昭和 37（1962）年に設置された本学造形学部は、当初「美術学科」と「産業デザイン学科」の２学科で構成され、各学科に、日本画・油絵・彫刻の３専攻と、商業デザイン・工芸工業デザイン・芸能デザインの３専攻、計６専攻が置かれました。

学部設置時より、全６専攻の開設科目には、彫刻専攻研究室開設の「彫塑」科目が必修科目として置かれ、昭和 39（1964）年には、共通基礎として学科専攻横断的カリキュラムに位置づけられました。彫刻専攻研究室に所属する教員は、彫刻専攻学生の実技科目を担当すると同時に、これら「彫塑」科目全てを、分担制やローテーション制により担当しました。

昭和 48（1973）年、彫刻専攻研究室において協議を行い、同研究室が開設・担当する授業科目のうち、彫刻専攻以外の学生を対象とする「彫塑」（及び、実技専修科、短大美術科・短大デザイン科の「彫塑」）科目の一部分離担当が開始されます。

その後も、二つに分かれた研究室は相互に、２つの彫刻領域研究室が開設する授業科目を担当し、緩やかな交流を断続的に行いましたが、紆余曲折を経て、共通彫塑研究室は、美術系デザイン系諸学科における必修専門実技科目（学科別専門Ⅰ類科目）「彫塑」を担当し、主に実材を使用した独自の立体造形教育を行うことになりました。

平成９（1997）年には、本学をとりまく新たな社会状況の中、大学の「彫刻教育の新教育研究体制の実施について」の検討要請により、共通彫塑研究室と彫刻学科研究室は分離後初めての協議を持ちました。結果、ほぼ４半世紀ぶりに彫刻領域を専門とする２つの研究室の授業相互担当が再開され、以降、彫刻学科研究室開設の学科別科目Ⅰ類「彫刻」の一部を担当しています。また、石彫場（石彫工房）の全面改修を共通彫塑研究室のもとで行い現在に至っています。

平成 11（1999）年には、所属学科を問わず自由に選択できる実技科目（「共通彫塑造形実習」）を本学で最初に開設しました。同時に、石彫場を、彫刻学科の学部・大学院生に加え、全 11 学科・大学院全専攻学生の共通工房として開放しました。平成 13 年（2001 年）以降は、「共通彫塑造形実習」を、早稲田大学との単位互換授業の実技科目として、本学で初めて他大学に向けても開きました。

平成 15（2003）年の全学的カリキュラム改革にともない、造形総合科目Ⅰ類「彫刻Ⅰ」（彫刻学科を除く 10 学科専攻学生の必修実技科目）の大半と、全 11 学科対象の造形総合科目Ⅱ類「彫刻」（選択必修／自由選択）を担当するとともに、彫刻学科研究室開設の学科別科目Ⅰ類「彫刻」の一部を担当しています。

また、平成 25（2013）年度からは、造形総合科目Ⅰ類「彫刻Ⅱ」（選択必修）を開設しています。

平成31（2019）年の造形構想学部新設に連動して、クリエイティブイノベーション学科と映像学科開設の造形構想基盤科目（必修）「造形実習Ⅱ（彫刻）」を担当、造形総合科目Ⅰ類「彫刻Ⅰ」は彫刻学科研究室との協議の結果、造形学部10学科のうち8学科を担当しています。

また、令和2年（2020）年から造形総合科目Ⅱ類「彫刻」は造形学部と造形構想学部の全学科を対象としています。

教育の理念

造形を学ぶ者にとって、「自己の外側の世界」に真摯に向き合う事の大切さは、あらためて言うまでもありません。「自己を取り巻く世界をどう認識するか」ということは、言い換えれば「自己を見据える」ことに他なりません。立体造形や彫刻と呼ばれる美術領域における「自己の外側の世界」とは、「自己の存在する世界」、「材料の存在する世界」、「作品の存在する世界」でもあります。

美術表現はもとより、私たちを取り巻く状況や世界を飛び交う情報は、日夜劇的に変化し、拡大し続けています。現代の社会では、自己をじっくり見つめることは、益々困難になりつつあると言えます。

「物」の世界である立体領域の造形美術では、たとえ作品の構想や思想が、自己の脳裡で確実に成立したと感じ、自分の作品にまつわる言葉を駆使し、理屈や理論として明快な文脈を構築できたとしても、それが現実と関係づけられない限り、空疎なものでしかありません。

制作行為は、それ自体がまさに思考の過程であり、現実と自己を関係づける行為です。単なる作業ではありません。しかし、制作行為に伴う思考の重要さは、自ら手を下さない人達には非常に理解が難しい点でもあります。逆説的にいえば、造形美術には自ら直接手を下すことでしか見えない領域があります。

これらのことを内的経験として実感する機会を得ることなく、作品成立のための枠組みや、表現方法、歴史的位置づけや価値の意味づけなど、第三者的に得られる知識や情報を整理し、それらを作品にどのように取り込むかという行為を急いでも、そこには自己を取り巻く曖昧で皮相な「殻」が出来上がるだけだと、私たちは考えています。

私たちの開設授業における「制作」とは、素材と共に試行錯誤する時間と、その成果を物に込める過程そのものということが出来るでしょう。授業では、出来るだけシンプルな課題による実制作を通して、立体造形の１つの核を、みなさん一人一人に実感して欲しいと考えています。

担当・開設科目

共通彫塑研究室は、造形学部と造形構想学部の全学科全専攻学生を対象に立体領域の授業を担当・開設しています。
定員 100 名をこえる一部学科の「彫刻」科目については、彫刻学科研究室と分担して担当しています。

造形構想基盤科目〔必修〕

クリエイティブイノベーション学科１年生
／「造形実習Ⅱ（彫刻）」
（学科定員 76 名）

映像学科１年生　／「造形実習Ⅱ（彫刻）」
（学科定員 76 名）

造形総合科目Ⅰ類〔必修〕

日本画学科２年生　／「彫刻Ⅰ」〔必修〕
（学科定員 39 名）

油絵学科２年生　／「彫刻Ⅰ」〔必修〕
（学科定員 油絵専攻 120 名・版画専攻 20 名計 140 名のうち 100 名）

視覚伝達デザイン学科１年生／「彫刻Ⅰ」〔必修〕
（学科定員 117 名）

工芸工業デザイン学科２年生／「彫刻Ⅰ」〔必修〕
（学科定員 120 名）

空間演出デザイン学科１年生／「彫刻Ⅰ」〔必修〕
（学科定員 108 名のうち約 88 名）

建築学科１年生　／「彫刻Ⅰ」〔必修〕
（学科定員 72 名）

基礎デザイン学科１年生　／「彫刻Ⅰ」〔必修〕
（学科定員 73 名）

デザイン情報学科 1 年生　／「彫刻Ⅰ」〔必修〕
（学科定員 76 名）

造形総合科目Ⅰ類〔選択必修〕

造形学部全学科 1 年生対象　／「彫刻Ⅱ」木材〈ホオズキ〉〔選択必修〕
「彫刻Ⅱ」粘土・石膏〈人体モデル（頭部）〉〔選択必修〕
（履修定員 40 名）× 2 科目

※造形総合科目Ⅰ類［選択必修］は、他の領域または同一領域であっても他の教育単位が担当する授業を必修として造形学部全 10 学科 1 年生の選択が可能です。この科目を 2 科目開設しています。

造形学部と造形構想学部の全学科全専攻学生と大学院生に関する開設科目

全学科専攻 1・2・3・4 年生（および大学院全専攻学生）
／造形総合科目Ⅱ類「彫刻 a」〔選択必修 / 自由選択〕
全学科専攻 3・4 年生（および大学院全専攻学生）
／造形総合科目Ⅱ類「彫刻 s」、「彫刻 c」、「彫刻 d」〔選択必修 / 自由選択〕

※造形総合科目Ⅱ類は、原則として履修すべき学年の指定は行っておらず、自学科の必修科目や文化総合科目と重複しない時期、または時間帯に履修することができます。

学科別科目Ⅰ類〔必修〕

彫刻学科 2 年生　／「彫刻 F」
実材実習（金属・石彫）
石彫選択（学科定員 31 名のうち半数が選択）
／「彫刻 G」
実材実習（金属・木彫）
木彫選択（学科定員 31 名のうち半数が選択）

各開設・担当科目の教育目標

○造形構想基盤科目〔必修〕
「造形実習Ⅱ（彫刻）」（クリエイティブイノベーション学科 1 年生）
「造形実習Ⅱ（彫刻）」（映像学科 1 年生）

この授業では、日常の身近なものをモチーフに立体制作します。

対象を見て制作するということが昨今では、ありきたりな美術表現、安易な描写力養成法、造形美術の初歩的訓練と誤解されやすい状況があります。しかし、この授業では、学生のみなさんに思考を伴った観察、すなわち「見ること」そのものに重点を置いて欲しいと考えます。

授業最終日に向かって作品を仕上げるという意識ではなく、自分の見ているものと制作している物の違いを出来るだけ無くしていくよう心がけてください。デッサンや立体制作することで、ただ対象を眺めているよりも、観察視点が広がり、使用する素材によって考察の観点が変化したり深まったりすることを体験してください。

モチーフの観察と制作を通して、日常生活の中で行っている「見る」という行為のあいまいさ、「見る」ことそのものについても考える契機としてください。言葉で紡ぎ出す世界の向こうに、あるいは普通名詞で区分できる概念の隙間に、広大な造形世界が広がっていること、そこには観察する対象とともに自分の視点観点が大きく関わっていることなどを実感してください。

○造形総合科目Ⅰ類〔必修〕
「彫刻Ⅰ」

- 専門科目 必修
- 造形総合科目 必修
- 造形総合科目 選択必修／自由選択／造形構想基盤科目

8月	9月				10月			11月				12月				2024年1月～3月			
8/1～9/2	4～9	11～16	18～23	25～30	2～7	9～14	16～21	23～28	30～4	6～11	13～18	20～25	27～2	4～9	11～16	18～23	12/25～1/6	1/8～3/31	
期	4期				5期					6期			7期						
オープンキャンパス 8／26・27（オンライン） 夏季休業市ヶ谷 7／31～9／2	17	18	19	20	21	22	23			24	25	26	27	28	29	30	冬季休業 12／25～1／6	31	32
	後期授業開始 9／4							芸術祭活動 10／23～11／2							後期授業終了（文化総合科目）12／16	後期補講・後期定期試験週間 12／18～23		卒業・修了制作展（鷹の台キャンパス）1／12～1／15	卒業・修了制作展（市ヶ谷キャンパス）1／19～21 卒業式 3／15

科目

○造形総合Ⅰ類
必修　彫刻Ⅰ
基礎デ1年
73名〔必修〕
粘土・石膏
〈人体モデル（頭部）〉

◉造形総合Ⅰ類
選択必修
彫刻Ⅱ
40名
粘土・石膏
〈人体モデル（頭部）〉

◉造形総合Ⅰ類
選択必修
彫刻Ⅱ
40名
木材
〈ホオズキ〉

○造形総合Ⅰ類
必修　彫刻Ⅰ
空デ1年
108名のうち
約88名
木材
〈煮干しまたは干し唐辛子〉

□造形構想基盤科目
必修
造形実習Ⅱ（彫刻）
映像1年
76名
粘土・石膏
〈人体モデル（頭部）〉

● **造形総合Ⅱ類**
選択必修/自由選択
彫刻a　8名
素描〈人体モデル（ヌード）〉

◎学科別科目Ⅰ類
必修　彫刻F［石彫選択］
彫刻2年
31名の半数
石材
〈人体モデル（頭部）〉

● **造形総合Ⅱ類**
選択必修/自由選択
彫刻s　5名
石材〈人体モデル（頭部）〉

□造形構想基盤科目
必修
造形実習Ⅱ（彫刻）
CI 1年 76名
木材
〈靴〉

◎学科別科目Ⅰ類
必修　彫刻G［木彫選択］
彫刻2年
31名の半数
木材
〈人体モデル（胸像）〉

●造形総合Ⅱ類
選択必修/自由選択
彫刻c　5名
木材〈人体モデル（頭部）〉

●造形総合Ⅱ類
選択必修/自由選択
彫刻d　5名
鉄〈植物〉

単位

○ 印は
造形総合科目Ⅰ類
〔必修〕

◉ 印は
造形総合科目Ⅰ類
〔選択必修〕

◎ 印は
学科別科目Ⅰ類
〔必修〕

● 印は
造形総合科目Ⅱ類
〔自由選択/選択必修〕

□ 印は
造形構想基盤科目
〔必修〕

● 祭典 10/27～10/29

● 卒制展 1/12～1/15（鷹の台キャンパス）
卒制展 1/19～1/21（市ヶ谷キャンパス）